

# 臨床研修修了にあたり

## 臨床研修終了にあたり

Aコース臨床研修歯科医 菅 沼 雄 大

この度、歯学部ニュースを執筆させていただきます。Aコース歯科研修医の菅沼雄大です。拙い文章で恐縮ではございますが、少しの間お付き合いしていただければ幸いです。

さてこれを執筆しているのは11月ではありますが、新潟もすでに冬の装いとなり、あの辛かった国家試験から1年が過ぎ、研修も残すところあと少しだと考えると、本当にあっという間の1年間だったなと感じています。研修が始まった4月、藤井先生が「もうジングルベルの音が聞こえてきます」とお話しされていましたが、気がついたら本当にそんな時期になってしまいました。

あっという間の1年間でしたが、歯科医師としての人生を歩き始めた期待と同時に不安なことばかりでした。Aコースでは20人ほどの患者さんを担当させていただき、1人1人に合った治療計画を立案し、診療を行います。最初は自分たちで診療をできるのか不安でしたが、診療のステップごとに指導医の先生が確認してくださり、修正すべき点がある場合にはその都度丁寧に教えてくださったおかげで、診療を重ねるごとに自信が付き、着実にできることが増えていく実感を得られました。診療後も指導医の先生よりフィードバックをいただくことで、次の診療へとつなげることができました。Aコースでは指導医の先生方と接する機会が多く、日頃から患者さんの治療に関する相談などをしやすい環境にあり、同期の研修医とも意見交換をできるため、いろいろな人の意見

を取り入れたより良い治療方針を立てることができました。

また1年間を通して同じ患者さんを担当させていただくことで、一口腔単位での治療方針を考え、治療に臨む良い経験となりました。むし歯やかぶせ物の治療はもちろん大切ですが、治療がすべて終わった後の口腔内の状態を維持するための口腔ケアも歯科医師の大切な役割の1つです。担当させていただく患者さんの中には治療がすべて終わっている方も多く、その方達の口腔内を健康な状態に保ち、より良い信頼関係を構築することも自分たちの目指すべきところだと実感しました。

この1年間で治療に関する手技だけでなく、1人1人にあった治療方針や患者さんとの接し方など多くのことを学ぶことができました。こんなに多くのことを学ぶことができたのは、藤井先生をはじめとする歯科総合診療科の先生方、同期の研修医、関わってくださった皆さん本当にありがとうございました。これから歯科医師としてこの濃い1年間に忘れずに精進して参ります。



筆者後列右

## 研修医修了にあたり

### Bコース臨床研修歯科医 小林 優 佳

この度執筆を賜りました研修歯科医師の小林優佳です。研修プログラムBで現在研修中です。プログラムBは、新潟大学の専門診療科と協力型研修施設で半年間ずつ研修するコースです。私の場合、4～9月は長岡赤十字病院の歯科口腔外科で、10月からは新潟大学の組織再建口腔外科にて研修を積ませていただいております。

前半の研修先の長岡赤十字病院では、周術期口腔管理や、外来患者さんの口腔外科処置、全身麻酔下での手術の助手、たまに一般的な歯科治療など様々な経験をさせていただきました。長岡赤十字病院での業務は多忙を極めており、目まぐるしい速さで患者さんを診察していきます。新患日は午前中だけで20人ほどの日もあり、困っている患者さんの多さに身の引き締まる思いでした。

私は臨床実習で抜歯の症例がなく、一度も口腔外科処置の経験がない状態でのスタートで、研修初期はコツがつかめず、このままずっと抜歯ができないんじゃないかと思い悩む日々でした。しかし、指導医の先生の丁寧なご指導の下、着実にレベルアップできたように感じております。難抜歯や水平埋伏智歯抜歯をたくさん経験することができ、自信をもつ

て患者さんに臨むことができるようになりました。

後半の組織再建口腔外科での研修は、前半学んだ口腔外科の知識や手技を用い、抜歯や手術の助手、入院患者さんの管理をさせていただいております。手術は何度も助手に入ると、次に何の操作を行い、そのために何の器具が必要か、どう鉤を引くと術者が見やすいかが少しずつわかってくるので、自分の成長を実感しています。抜歯の症例もたくさんもらえているので、今後は無駄な操作をせず確実に抜歯するにはどうしたらよいかを考えながら取り組みたいと思います。

私の研修1年間は口腔外科をしっかり学ばせていただきました。口腔外科で必ずと言っていいほど行う切開・剥離・縫合などの外科基本手技は、どの治療においても重要で、それを習得できる環境に身を置けたのはすごく恵まれてると感じております。怒涛のように過ぎ去っていった研修期間でしたが、すべての経験は血肉となっていると実感しております。

今後も続いていく歯科医師としての人生ですが、最初の1年はものすごく意味のある重要な期間であったと思います。ご指導いただきました先生方、研修先の方々への感謝を忘れず日々勉強し、邁進していく所存です。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。



協力型施設の長岡赤十字病院にて 著書は前列中央